

平成30年
2月28日

病害虫発生予報 3月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう。

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ・促成トマト・促成キュウリ：灰色かび病	1
イチゴ：ハダニ類	2
促成・半促成ピーマン：アザミウマ類	2

【その他の病害虫】

イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，春ハクサイ，春レタス	3
------------------------------------	---

II. 今月の気象予報 4

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ・促成トマト・促成キュウリ

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い (イチゴ・促成トマト)	県下全域
	平年並 (促成キュウリ)	

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在, イチゴにおける発病果率(本年値0.02%, 平年値0.05%), 発生地点率(本年値10%, 平年値7%)ともに平年並である。
- ② 2月下旬現在, 促成トマトにおける発病株率(本年値1.3%, 平年値2.6%), 発生地点率(本年値17%, 平年値25%)ともに平年並である。
- ③ 2月下旬現在, 促成キュウリにおける発病株率(本年値0%, 平年値0.7%), 発生地点率(本年値0%, 平年値11%)ともに平年並～やや低い。
- ④ 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年より高く, 降水量は平年より多いと予想され, 発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので, 暖房, 送風, 換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き, ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は, 薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 薬剤耐性菌の出現を防ぐため, FRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は, 晴れた日の午前中に行う。また, 曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は, くん煙剤を利用する。

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、被害株率（本年値 28.8%，平年値 25.2%）、発生地点率（本年値 70%，平年値 63%）ともに平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成・半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、促成ピーマンにおける寄生花率（本年値 50.0%，平年値 38.5%）、半促成ピーマンにおける寄生花率（本年値 2.0%，平年値 5.3%）ともに平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を導入している場合は、影響が少ない薬剤を選択する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	斑点病	発生量：やや少ない	2月下旬現在，平年よりやや少ない～少ない発生である。向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より多いと予想され，発生を助長する条件である。
促成トマト	コナジラミ類	発生量：多い	2月下旬現在，平年より多い発生である。
促成キュウリ	うどんこ病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	褐斑病 べと病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より多いと予想され，発生を助長する条件である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。
春ハクサイ	白斑病 べと病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	菌核病 腐敗病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月24日から3月23日)

気象庁(2月22日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	10	30	60
	日照時間	関東甲信全域	60	30	10

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 2月24日(土曜日)から3月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 3月3日(土曜日)から3月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 3月10日(土曜日)から3月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成29年4月27日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。